東日本大震災から13年目を迎えて "いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町づくり"へ

東日本大震災並びに原子力災害から12年を迎えました。この大震災より、今日に至るまで尊い命を亡くされました、直接死と震災関連死を併せて49名の方々のご冥福をお祈し、直援死と食災関連がある。

元気あふれるまち」の実現に取り組んでいき働しながら健康づくりの輪を広げ、「日本一極的に展開し、町のみんなが相互に連携・協関と連携を図るとともに、健康増進事業を積

これまで、町民の皆様の懸命なご努力と国内外からの温かいご支援により、全町避難を大る環境回復、放射線による健康不安の払拭、災害に強いまちづくりを念頭としたイン対、災害に強いまちづくりを念頭としたイン社、災害に強いまちづくりを念頭としたイン社、災害に強いまちづくりを念頭としたインは、災害に強いまちづくりを念頭としたインは、災害に強いまちづくりを念頭としたインは、災害に強いまちづくりを念頭としたインは、災害に強いまちづくりを念頭としたインは施設の整備、広野こども園、ふたば未来学園中高一貫校を始めとする教育環境の体制整備等、生活環境を一つひとつ整え、9割の帰還を果たし、廃炉・復興関係事業者や他市町へ

校舎が開校となり、 労環境や企業マッチングに力を入れ、 生のまちづくり、に取り組んでまいりました。 今後、協定を締結している早稲田大学環境総 開園、ふたば未来学園中学校・高等学校の新 様々な場面において情報を共有していきます。 学などの高等学術機関、各企業等、関係する 移住・定住応援隊、ふるさと福島広野会、大 目治体、NPO等地域団体、ひろぼークラブ、 定住施策を展開するにあたり、国・県・地方 の安定的な生活を支援していきます。 負担軽減となる補助制度を実施するなど、就 部等からの移住に重点を置き、住宅地購入の 第二期開発地区の住宅地整備等を実施してま 事業のシンボルと位置付けている広野駅東側 掲げる基本理念・目的を達成するため、 立地し、令和5年度には、広野町復興計画に 野、馬場医院、広野薬局、 野みらいオフィス、ホテルハタゴイン福島広 東口広場、未来のかけ橋が完成したほか、広 む幼保連携型認定こども園「ひろぱーく」の すべての皆様とネットワーク体制を構築し、 いります。若者子育て世代の定住・県外都市 未来を託す子どもたちの健やかな成長を育 広野駅東側整備事業においては、 000人が日々勉学に励んでおります。 教育の丘が形成され、 広野町商工会等が 広野駅前 移住後 移住・ 復興

に対し、迅速かつ適切に対応するため関係機に対し、迅速かつ適切に対応するため関係機構を活かすための教育を充実させていきます。を活かすための教育を充実させていきます。を活かすための教育を充実させていきます。「福祉のまちづくり」宣言を踏まえ、地域が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福祉の様々な課題が抱えている医療・介護・福島国際研究機構に対し、迅速かつ適切に対応するため関係機

ニュートラルの実現を目指します。

村からの避難者を含めた約6、000人の。共

持ち、 創生を成し遂げる決意をもって取り組んでま を大切にし、 皆様と信頼を深め、互いにリスペクトの念を ますが、これまでいただきました様々なご縁 有難さを深く感じ、感謝の念に堪えません。 究機関等の研究者の方々に、ご縁、つながりの 方、行動力に溢れたNPOの方々、大学学術研 退職後に支援職員として赴いていただいた 県、全国の自治体からの応援職員、国家公務員 いります。 復興・創生には、 これまでご支援・ご厚情を賜りました国、 理解し合うことで、必ずふる里復興・ 愛するふる里のために、様々な 様々な課題・難題があり

郷土の歴史を振り返れば、私たちの先人は、

2023.4 広報ひろの 写真提供: アジア航測㈱ 2023.4 広報ひろの 2023.4 広報